

“削減実績量”でGX製品の価値を見える化

◆GX製品に新指標「削減実績量」を経産省が提示

鉄鋼や化学など素材産業では、調達や製造過程などのGHGを削減する投資は大規模になる。しかし、GHGが削減された製品（GX製品）そのものの品質や機能などは従来品と変わらず、GX製品の価値をユーザは認識しづらい。

2023年11月から開催されている経産省の研究会では、あらゆる産業のGX製品の価値が市場で正しく評価される

には、指標の導入が不可欠とした。製品のライフサイクル全体のGHG排出量を表す指標にカーボンフットプリントがあるが、移行期には、自社努力による製品ライフサイクルへの“削減実績量”を評価指標にすることが提案されている。

図1 CFP, 削減実績量, 削減貢献量の位置づけ



出所:経産省・産業競争力強化及び排出削減の実現に向けた需要創出に資するGX製品市場に関する研究会,2024年2月資料より抜粋
https://www.meti.go.jp/shingikai/energy_environment/gx_product/pdf/003_03_00.pdf

◆GX製品の需要喚起につながる新指標へ向け動き出す

削減実施量については、産官学連携のGXリーグが組織したグリーン商材の付加価値付け検討WGが23年12月に

提言書をまとめ、企業の実際の取組みで削減した排出と従来排出との差を ΔCO_2 とすることを提案している。電気炉鋼材、バイオマス材料、EV、建築物などのグリーン商材の例

表1 CFPと ΔCO_2 の主な比較論点(補完的関係)

	CFP(カーボンフットプリント)	ΔCO_2
定義	製品ライフサイクル全体を通じたCO ₂ 排出量(排出量履歴推定値)	従来の排出量と比較して実際の取り組みによって新たに削減したCO ₂ 排出量(実際のCO ₂ 排出削減量)
確からしさとコスト	厳密に求めるため、仕組みの整備などに費用と時間を要する	企業が自らコミットして実際に改善した排出量は正確に算定できる
グリーン基本価値	排出量であるため数値の低さを訴求することができる	削減量であり商材の魅力度や顧客のScope3排出削減等の付加価値になる可能性がある
認証・ラベリング	一部で既に実用化・普及	認証に基づく新たなラベルを提案

出所:「グリーン商材の付加価値付けに関する提言書」GXリーググリーン商材の付加価値付け検討WG 2023年12月より抜粋
<https://gx-league.go.jp/news/2023120401>

を示した。例えば、カーボンフリー鋼材を原料にグリーン電力で製造した鋼材を環境配慮型電気炉鋼材とすることで、GX価値を指標化できるとする。

削減実績量の算定の手順については、今後、日本LCA学会で検討を進め、国際標準化への取組みも推進していくという。削減実績量という新指標の導入により、GX製品の価値が広く認められるようになるか注目される。 【新井喜博】